

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0691900146		
法人名	特定非営利活動法人ひのき		
事業所名	NPO法人ひのきグランデージあすなる川樋		
所在地	山形県南陽市新田577番地		
自己評価作成日	令和 6年 1月 16日	開設年月日	令和 3年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内からは東北中央道、山形新幹線、国道13号線が見える場所にあり、交通網の現代版が日々見ることが出来ます。周囲はブドウ園が張りめぐらされ反面自然豊かな地域です。そんな中で利用者は毎日、元気に楽しい生活を送っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 1月 31日	評価結果決定日	令和 6年 2月 19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は年齢に近い多くの職員と、昔の話・懐かしい歌謡曲・食べ物・行事など共通の話題で盛り上がり、話の輪が広がっています。食事は3食手作りにこだわり、前もってメニューは決めずに利用者から今日食べたい物のリクエストや食材を見ながら職員がその場で献立を決めて調理し、利用者から下ごしらえなどの手伝いがあり、出来立ての温かい食事を食べて笑顔に繋がっています。医療機関デイサービスの送迎でリハビリに通っている利用者もおり、情報交換しながら多方面な支援を実施しています。コロナ禍の状況も緩和され、利用者が大好きな近隣の花見(桜・つつじ・あやめ・ゆり・ダリア・バラ・菊人形など)の名所に出掛けて季節感を肌で味わってもらいたいと心待ちにしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員で作成、それを基に取り組んでいる。			
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を活用し交流を図っているが、今年度は、コロナ感染症対策のため実施出来なかった。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ対策のため、実施できなかった。			
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議は書面協議で実施。質問あるときは電話対応で実施した。			
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理運営について、疑問な点は随時電話で連絡をとり合っている。			
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営規程を改正し、又、研修を実施。ご家族と相談のうえ、身体拘束をしないケアに努めている。			「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、検討委員会を法人全体の管理者会と事業所内で組織して話し合っている。職員は内部研修で学習し、危険が及ぶおそれがある時だけ注意するようにし、利用者の自由な暮らしを見守っている。予測されるリスクについては事前に家族等に説明し、理解を得ている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	家族の様子、本人の様子を観察しながら、変化があった際は情報を共有し対応できるように、内部研修で知識の向上に努めている。	身体拘束と合わせた委員会で話し合っている。職員は内部研修で身体的行為だけでなく何が虐待に当たるか学習して理解し、早期発見・防止に努めている。気になる行為が見られたときは職員同士で話し合いながら検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月実施している内部研修で、権利擁護に関する動画を活用し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの説明から始まり、利用者家族が不安に思っていることを聞き、対応するように努めている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケートを取っている。面会時必ず話をするようにし、意見をお聞きしている。	現在、利用者との窓越し面会は家族等のみ感染予防対策をしながら可能としている。玄関にアンケート用紙と意見箱を常時置いてあり、何時でも家族等から意見・要望を聞く体制を整えている。家族等には毎月担当職員から利用者の近況報告のお便りと、広報紙「グランデージあすなろ通信」も一緒に送付している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換している。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の会議や日々の業務の中で就業環境を整え、働きやすい環境づくりに努めている。	管理者は職員の日頃の努力している所や勤務状況を把握し、月1回の法人本部の管理者会で報告して処遇に反映させている。シフト希望・急な勤務交替・有給休暇取得にも互いに協力し合う働きやすい職場環境となっている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症での、研修参加は見送っているため、内部研修に時間を費やしている。	内部研修は年間研修計画に沿って、毎月の職員会議に合わせて研修ソフトを利用して実施しており、受講後は感想の報告書を提出している。資格取得を奨励し、該当者には声掛けして一部費用も援助している。	コロナ禍の状況も緩和されてきたので外部研修への参加を検討し、内容を全職員で共有してレベルアップに繋がるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ感染症対策のため外部研修を控えているため、内部研修に力を入れている。五類に移行しているため、今後外部研修に力を入れていく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の話をよくお聞きし、入居されてからも要望、不安の訴えにその都度耳を傾け、少しでも安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までスムーズに進められるよう実調の際詳しく話を聞くようにしている。入所後も家族との連絡を密にとる事で利用者家族共に不安なく生活できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人、家族とよく話し合い、現在のニーズが把握できるよう努めている。そのうえでグループホームで出来る事、出来ない事を話し合い理解していただき、入所の際は利用者の思いに添うケアに努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重しつつ、本人の出来ることを見つけ、日々の生活の生きがいにつながるよう努めている。	利用者と年齢が近い職員が多く、昔の話など共通の話題で盛り上がり良く理解し合っている。食事の下ごしらえ・洗濯物干しやレクリエーション時の準備などに得意分野を發揮してもらい、利用者同士で面倒見合う微笑ましい光景も見られる。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題があれば家族にその都度連絡しご意見を聞き改善に努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により市内に出向き楽しんでいただき、又自宅周辺のドライブをする等している。	利用者との面会は家族等以外は自粛してもらっている。入居時に家族等から聞き取りで生活歴を把握し、趣味を活かして歌の好きな利用者の先導で皆で合唱している。降りないドライブに出掛けて車窓から季節を感じてもらっていたが、春からの花見(桜・あやめ・ダリア・・・など)を待ち望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんそれぞれ仲の良い友達が出来ているが利用者間でのトラブルが起こった時はすぐに職員が仲介し対応されている。落ち付いて楽しく生活できるような食席も配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ本人や家族との関わりを持ち移動先で不安に思っているご家族には電話で相談援助している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話に耳を傾け、生活への希望を把握できるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント、ご家族との話を通じ利用者の生活環境や生活歴をお聞きし本人の意向に添ったケアを心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回のカンファレンス時、心身の状況をきちんと把握し職員間で現状を共有できるように努めている。			
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時現状に合わせた介護計画を担当者が作り職員間で情報を共有し、介護に努めている。	本人からの訴えと家族等の希望を聞き取り、健康面は主治医の意見も取り入れ、何に困っているかどんな支援を必要としているかなど具体的な支援内容の介護計画を作成している。毎月の職員会議とセットした利用者全員のカンファレンス(検討会)では担当職員から現状の説明があり、全職員で話し合い評価・見直しに活かしている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表(タブレット利用)特変等があれば記入情報の共有に努めている。	職員は日々の記録をタブレットのシステム化された各項目に入力し、個別のケース記録は印刷して綴っている。「サービス提供状況確認シート」用紙でバイタル・食事摂取量・服薬などチェックして統一したケアが出来るよう情報を共有している。職員は出勤時に申し送り欄を確認してから業務に就くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の運営をぎり押しすることなく、利用者の特性に合わせるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で地域の方々との交流が途絶えていたが、五類移行となり、徐々に交流を深めていきたい。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が協力医の往診を受けている。受診時には担当者が受診報告書を記入、日々の様子を医師に報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に依頼している。訪問時職員が状況を報告、対応していただいている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーと処方箋や紹介状を準備し安心して入院できるよう情報提供している。入院中はコロナ関係で面会できなかったが、家族と電話で近況を聞くなど支援体制を取っていた。	利用者に変化があった場合は主治医に連絡して指示をもらい夜間や緊急時は救急搬送の場合もあり、入院となった時は医療連携室にケアマネジャーが情報提供書を提出している。入院中は家族等と情報交換しながら退院後の相談にも乗っている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として対応できる事柄を実調時入所時文書で説明し、了解を得ている。	入居時、指針「重度化した場合における対応」により医療行為が常時必要となった方への対応として看取りは出来ないことを説明し、本人・家族等の理解、同意を得ている。かかりつけ医の判断を受け、重度化の進捗状況により家族等と都度話し合いを持ち、他生活拠点の確保等を含め支援方針を決めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救命救急の講習を受けるように努力している。また、内部研修に力を入れ動画を活用し勉強している。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、実践に生かせるように訓練している。地域との連携も大切であり、地区長との連絡も随時取れる様にしている。	非常災害時対応等について動画での研修後に、夜間想定火災避難訓練を行い初期消火・消防署への通報・避難誘導訓練を通して、利用者生命を守り安全確保することを学んでいる。事業所立地が土砂災害の危険性があると想定されているため避難経路の検討をしている。	避難訓練実施後に消防署の講評、職員行動の良かった点、反省点・課題等を記録に残し次回訓練に活かせるように、また運営推進会議へ訓練内容等を報告し、地域代表委員へ依頼して協力体制を築くことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴や価値観を尊重し丁寧な言葉遣いに心がけている。	利用者の生活歴や価値観、思いや得意なこと、ホームで暮らす中での日々の新たな気付きを職員は共有している。丁寧な言葉遣いで人生の先輩として敬意を払いながら、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを守っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定が出来るように本人の意向に寄り添い、日々の介護に努めている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々レクリエーションは決定しているが参加は自由とし、一人一人の意思を大切にしている。個別に趣味活動等が出来るように配慮している。	起床や就寝、食事、入浴、レクリエーション活動などの日課はあるが、時間や参加する・しないなど本人の気分や生活のペースに合わせている。利用者がどのように暮らしたいか、思いや得意なこと、課題となっていることを把握し、希望する生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で出来る方は自由に、出来ない方には職員が声がけ相談して支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や茶菓子は時々利用者の意見を取り入れ献立や茶菓子の購入や食事作りに取り組んでいる。	旬の食材を取り入れ3食手作りで調理し職員も一緒に食事している。お粥や刻み・ミキサー食など利用者毎の食事形態で提供し、「旨えな〜」など満足した声が聞かれる。下ごしらえなどに利用者の手伝いもあり、季節メニューや行事食、地元の料理などを折々に取り入れ食事が楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し記録。その方にあった量を摂取できるように声掛けしている。			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施。指導助言している。	毎食後に口の中の汚れ・臭いの除去のため、うがいや歯磨き、義歯洗浄など必要な方には介助して口腔ケアを行い清潔に健康的に過ごせるようにしている。歯科医師の往診や歯科衛生士からブラッシング指導や助言をもらい口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えない利用者には定期的に声掛けし、出来るだけトイレで排泄できる様に努めている。	毎日の排泄チェックで一人ひとりのパターンを掴み、自立の方もいるが声掛けや誘導でトイレ排泄の維持に努めている。見守りや介助により排泄状況を把握し共有タブレットで確認出来るようにし、失禁時等は羞恥心に配慮してさりげなく支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かすことにより、自力排便が出来るように努めているが、便秘症の方には主治医から下剤を処方していただき対応している。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や気分を考慮し、拒否のある時は無理強いしないようにしている。入浴中は声掛けし楽しく入浴出来る様にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間や昼寝は本人に決定していただき、気持ち良い時間を過ごせるように努めている。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方通りの服薬が出来るように仕分け、処方に変更があるときは業務日報で申し送りしている。	薬情報については効能・目的・副作用等を共有している。夜勤者が翌日分を仕分けし、服用時に名前・朝(昼・夕)の薬・飲み込みの確認を行い誤薬等ないようにしている。薬変更時は業務日誌で申し送りを行い、職員同士連携して変化等の有無を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	一人一人の生活歴や趣味を把握し、個々に合わせた支援に努めている。		
49		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	コロナ感染防止のため実施出来なかった。五類の移行もあり、今後外出支援に努めたい。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	基本的には現金の持ち込みはしない事としているため、日用品などについては立替払いとしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	本人の希望により自由にしている。手紙等のやり取りは自由としている。		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者の心が和む取り組みとして季節の草花を室内に飾り、また、プランターに野草を植え季節感も味わえる取り組みをしている。	折々の草花を飾り、玄関先のプランターに植物を植えるなど季節感が身近に感じられるようにしている。ホールではお茶の時間のおしゃべりや皆で一緒にレクリエーション活動を楽しみ、ゆっくり寛ぎながら過ごす様子が見られる。また換気や消毒、密にならないなどで感染症の予防に努めている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	食席はお話の合う人の隣、テレビの好きな方には見やすい席を提供し楽しく過ごせる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には危険なものでない限り自由に持ち込みしていただいている。	ベッド・衣装ロッカーなどが備え付けてあり、これまでの生活で馴染みのテレビや時計、家族写真など自由に持ち込み、ホームでの創作品などを飾り、利用者の使い勝手の良い居室作りをしている。立ち上がりや歩行に不安ある時は見守り強化やセンサー設置で転倒事故の無い安心・安全な生活が出来るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来ること、出来ない事を把握し、軽いリハビリが出来るスペースを作っている。出来ない事には手を貸し、出来ることは本人にしてもらって生きがいや生活にハリが感じられるように努めている。		